



奈良市消防団を中核とした 地域防災力強化訓練

奈良市消防団

1 はじめに

奈良市は、奈良県の北部に位置し、人口360,312人（平成29年2月1日現在）大和青垣国定公園、奈良公園、矢田自然公園など美しい自然の中に囲まれ、特に特別天然記念物に指定されている春日山原始林をはじめとします緑の環境に恵まれています。

市域面積276.84平方キロメートルで、築1,300年を超える木造建築物など、市内には、世界遺産「古都奈良の文化財」をはじめ数多くの歴史的遺産があり、さらに近畿圏における中核市としても発展を続けています。

防災面では、防災対策の基本としている「災害に強いまちづくり」、「災害に強いひとづくり」、「災害に強い組織体制づくり」を目指し、自助・共助・公助のそれぞれの取組が一体となって、迅速かつ適切な防災活動が行える体制整備を図っています。

2 奈良市消防団について

奈良市消防団は、昭和23年4月に5分団118名をもって発足されました。その後、幾多の合併を経て平成17年4月に21分団960名となり、平成21年4月の女性消防分団発足に伴い22分団1,000名（実員974名）となりました。

主な活動としまして、平成26年度から「奈良市消防団活性化大会」として実際の災害時に地域の防災・減災の中核を担う我々消防団が、医療の専門チームであるDMAT（災害派遣医療チーム）、DPAT（災害派遣精神医療チーム）

との連携訓練を実施しています。

3 訓練実施の経緯

奈良市では、平成25年12月13日に公布された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」により、消防団を中核とした地域防災力の強化に取り組んでいるところです。

その取組の一つとして、WHO版の心理的応急処置「サイコロジカルファーストエイド（PFA）」、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレンの「子どものための心理的応急処置」の研修を受講し、専門家以外でもできる心理的応急処置を習得しました。災害時には、それぞれの機関が単独では機能することが難しく、消防機関、自治会、医療機関等が連携を強化することが重要です。そこで、平時に「顔の見える関係づくり」をしていることが必要と考え、関係機関のご指導、ご協力で行っています。

4 過去の訓練

奈良市消防団・DMAT・DPAT合同訓練

日時：平成27年2月9日（月）

場所：奈良ロイヤルホテル（全館貸切、停電状態）

主催：奈良市消防団

共催：奈良市消防局

国立精神・神経医療研究センター災害時
こころの情報支援センター

参加機関：奈良市消防団、奈良市消防局、災害時
こころの情報支援センター、消防団員
等公務災害補償等共済基金、DMAT
(市立奈良病院)、日赤救護班(京都第
一赤十字病院、日赤救護班京都府支
部)、DPAT 9自治体(奈良県、千葉
県、富山県、静岡県、大阪府、岡山県、
山口県、福岡市、沖縄県)、奈良県精
神保健福祉センター、奈良市医師会、
奈良市保健所、奈良市危機管理課、
奈良市佐保川地区自主防災防犯協議
会、奈良市女性防火クラブ、奈良ロイ
ヤルホテル、他自治体消防団

見学機関：総務省消防庁、厚生労働省、奈良市議
会、陸上自衛隊第7施設群、日本火災
学会、J R西日本、奈良県医師会、奈
良県下消防本部、奈良県下消防団、奈
良県防災統括室、奈良県消防救急課、
奈良県保健予防課、奈良県地域医療
連携課、奈良県臨床心理士会、奈良
市自主防災防犯協議会、近代消防社、
国立大阪医療センター、他自治体関
係者、他自治体消防団

協力機関：公益財団法人 日本消防協会

計427名

奈良市消防団・DMAT・DPAT 合同訓練

日時：平成28年2月7日(日)

場所：近畿日本鉄道株式会社、西大寺検車区、
近鉄スポーツセンター(奈良市尼辻北町)

主催：奈良市消防団

共催：奈良市消防局、近畿日本鉄道株式会社、
日本DMAT事務局、日本赤十字社奈良
県支部、奈良市医師会

協力：公益財団法人 奈良県消防協会、奈良県消
防長会、帝人フロンティア株式会社、ひ

かり装飾株式会社

参加機関：奈良市消防団、奈良市消防局、近畿日
本鉄道株式会社、DMAT(奈良県総
合医療センター、市立奈良病院)、日
本赤十字社奈良県支部(日赤救護班)、
DPAT8自治体(奈良県、千葉県、富
山県、大阪府、兵庫県、徳島県、佐賀
県、沖縄県)、日本DMAT、DPAT事
務局、奈良市医師会、奈良警察署、奈
良市女性防災クラブ、奈良市保健所、
奈良市危機管理課、他自治体消防団
(秋田県大仙市、三重県伊賀市、大和
郡山市、生駒市)、奈良県防災航空隊

見学機関：総務省消防庁、厚生労働省、公益財団
法人日本消防協会、消防団員等公務
災害補償等共済基金、陸上自衛隊第7
施設群、奈良県議会、奈良市議会、日
本火災学会、公益財団法人奈良県消
防協会、奈良県下消防本部、奈良県下
消防団、J R西日本、奈良県医師会、
奈良県下消防本部、奈良県下消防団、
奈良県消防救急課、奈良県保健予防
課、奈良県地域医療連携課、奈良市
内自治会、近代消防社、他自治体消防
団、他医療関係者、奈良市女性防火ク
ラブ 等

計595名

5 今年度の訓練

【訓練概要】

目的：消防団と自主防災組織等の連携等
による地域防災力の向上

目標：大災害時、公的機関の支援が届か
ない中、地元組織の自助、共助に
て災害初期対応訓練を実施し、地
域防災力の向上を目標とする。ま

た精神的ケアも取り入れ、災害に備える。

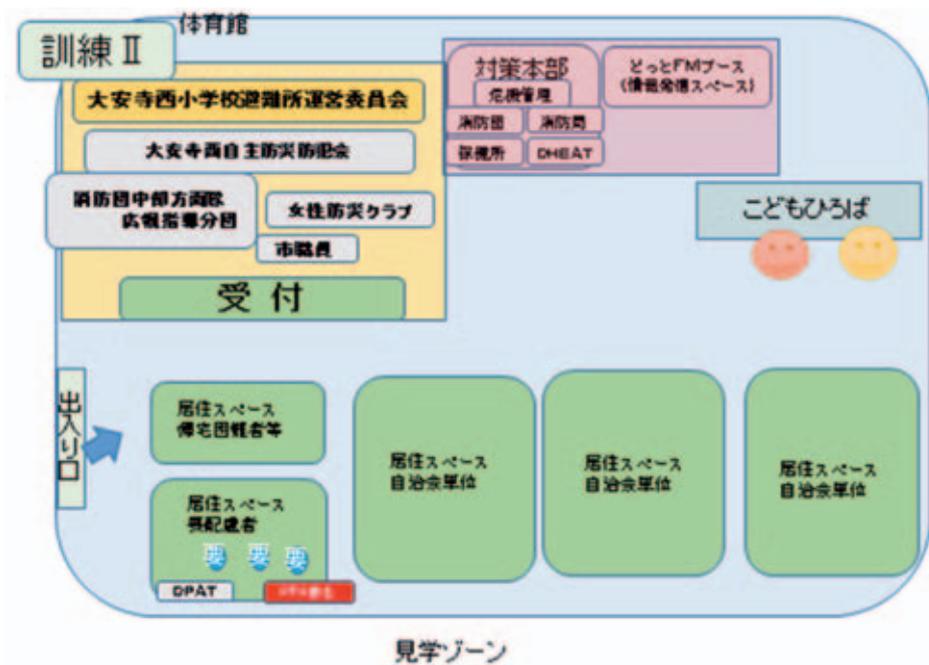
訓練想定：平成29年2月5日14時00分奈良市内を震源とする奈良盆地東緑帯地震が発生、地震の規模はM7.4奈良市内において最大震度7を観測した。市内各地で家屋倒壊、死傷者多数。一部で避難所が

立ち上がっている。

訓練は、大きく分けてIとIIにより実施する。

訓練I 消防団を主とした地震初動訓練（車両救出訓練、倒壊家屋救出訓練、消火訓練）

訓練II 避難所運営訓練（消防団と地元自治会をはじめとする関係機関が連携）





第5回奈良市消防団活性化大会
(奈良市消防団を中核とした地域防災力強化訓練)

日 時：平成29年2月5日(月)
場 所：奈良市立大安寺西小学校(大安寺西1丁目342)
主 催：奈良市消防団
共 催：大安寺西地区自治連合会、奈良市消防局
協 力：大安寺西地区自主防災防犯会
DMAT事務局、厚生労働省委託事業
DPAT事務局、日本赤十字社奈良県支部

参加機関：奈良市消防団、大安寺西地区自主防災防犯会、奈良市女性防火クラブ、奈良県DMAT、奈良県DPAT、DPAT事務局、奈良県DHEAT、日本赤十字社奈良県支部、公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、株式会社奈良シティエフエムコミュニケーションズ(ならどっとFM)、三重県四日市市消防団、三重県伊賀市消防団、

奈良市危機管理課、奈良市保健所、奈良市消防局
見学機関：総務省消防庁、公益財団法人 日本消防協会、消防団員等公務災害補償等共済基金、奈良市選出国會議員、奈良市議会、奈良市自主防災防犯協議会、奈良市医師会、奈良県防火・防災連絡協議会、平城西中学校区教育協議会、平城西中学校、奈良県消防協会、奈良県消防救急課、リスクウォッチ、他自治体消防団

計320名





6 おわりに

梅林聡介 大安寺西地区自治連合会会長

今回の訓練に参加するにあたり、一番大事だと考えていたポイントは地域を熟知する消防団と自治会の皆さんとの協働でした。普段から地域で活動いただいている消防団と自治会組織がどのように協働出来るのか、興味深く見ていました。実際の災害では協働・連携というものが大事になります。消防団と自治会組織の連携がうまくいかないと、全体がうまく回らないことになります。このような訓練を重ねることにより、より深い連携が築け、実災害でも対応がもっとうまくいくのではないかと思います。

中室貞浩 活性化大会実行委員長（奈良市消防団副団長）

この度の合同訓練は“災害時における連携を目標として消防団と地元組織による自助、共助の災害初期対応”という所期の目的は達成できたと感じています。

引き続き、今回の訓練で得た課題、問題点を徹底検証し、各関係機関と更なる連携強化及び訓練を実施し、住民や当市を訪れる観光客の皆様が安心できるよう全力で取り組んでまいります。

最後に合同訓練実施にあたり、消防団員等公務災害補償等共済基金、大安寺西地区自治連合会を始め各関係機関の皆様には、ご尽力を賜りましたこと、紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。